

## 百貨店離れが加速

ジーコム生活  
行動研究所調べ

百貨店の売り上げ減少が深刻だが、利用客の減少がその背景にある——ジーコム生活行動研究所(福岡市、村上隆英社長)が福岡都市圏を中心とした地域で商業施設の利用機会の変化を調べた結果、百貨店の利用が増えたという人は8.8%に対し、減ったという人は41%にのぼり、他の業態に比べ増加が最も少なく、減少が最も多かった。

◇ ◇

調査は同社のモニターに対するインターネット調査で、20歳以上の男女を対象に2月中旬に実施(サンプル数は391人)。商業施設の利用の増減で、増加とした人はコンビニ30.2%、ドラッグストア29.7%、郊外SC27.6%、スーパー25.8%、百貨店8.8%の順。

これに対して減少は百貨店41.3%、郊外SC25.6%、コ

### 4割超が利用減少と回答

ンビニ20.2%、ドラッグストア15.2%、スーパー10.3%。百貨店以外は増加が減少を上回っており、百貨店を利用しなくなった人が他の業態を利用しているとも見える。

調査は20~60代以上を5段階に分けて調べているが、高齢になるほど百貨店利用が減少したという人が増えている。百貨店利用は20代では増加と減少が20%台で伯仲しているが、30代以降では増加は1ケタ台になり、減少は40%台。60代では増加3%に対し、減少48.5%で増加が最も少なく、減少が最大になっている。

他の業態に比べ百貨店利用者は年配者が多いが、昨今の百貨店の不振は頼みの中高年齢の百貨店離れが原因しているとみられる。